

図書館通信 — 10 —

1971. 7

より良き図書館への願いをこめて

—館長退任のことば—

天野佳人

去る6月30日、2年の任期をぶじに了えることができました。在任中お寄せいただきました全学の教官や事務官の方々の、とくに図書館に関係された委員や館員の方々の御協力に対しまして、こゝに心かななる感謝を申し上げます。

思えば、本館の移転の事業を擔われました兼岩館長のあとを受けて、本館の云わば整備の時期に就任しました私は、力の限りの努力をしたつもりであります。しかし着手できなかった仕事、やり残した仕事が多々ありまして、甚だ忸怩たるものがございます。それらにつきましては、石塚新館長に引き継ぎ、御善処を願っております。唯一つ極めて重大な問題については、近い将来根本的な検討がなされ改善がなされるよう、学内輿論をおこす意味で、こゝで申し述べることをお許しいただきたい。それは図書館の維持費の問題であります。

これは、御承知のように、文部省よりの配当額もありますが、それは現在所要経費の程度の極めて少額のものでありまして、大部分は校費（教官当り積算と学生当り積算校費）によって賄われなければならないものであります。国立大学図書館協議会では、文部省より配当の維持費の額のあまりに少ないことを不満として、その抜本的増額を毎年強く要求し続けていますが、これはあくまでも各大学の維持費の補助金であるというのが文部省の見解ですので、あまり期待できそうもありません。

さて、この維持費問題のポイントは、本学では総額が年々大幅に（校費の伸び率以上に）膨まざるをえない深刻な悩みをもっていることです。その最大原因は、本館、分館とも定員を低く押えられているために、やむをえず定員外職員を多数かゝえているからであります。ですから図書館の活動を低下させずにこの膨脹率を適正に押えるためには、図書館の定員数の適正化が不可欠であります。もし定員数が現在のまゝに据えおかれますと、年々予算は相当増加しても、図書館の活動は実質的に低下せざるをえなくなります。そうなれば大学の研究と教育に重大な支障がないわけには行きますまい。この事情については学内の関係者は御認識がありますので、追々取り上げられる問題とは思いますが、私からも訴えておきます。上述の図書館定員の適正配置の基礎の上に立って、さらに重要なことは図書館運営に対する本学の基本姿勢の確立でありましょう。維持費についても、研究と教育の目的に沿うためには、本学としてや、恒久的に年額どれだけの金額を図書館の維持費に向けるべきか、つまり校費の何%に向けるべきかを決定することです。維持費のみでなく、図書管理方式についてもさらに根本的に審議するべきことは申すまでもありません。浜松分館が本年度新築され、農学部移転に伴う本館の増築も明年度に行われる予定ですので、その時期が恒久的の方策を確立するのに適当な時でありましょう。そのためには、速かに例えば評議会に下部機構として小委員会がつけられ、そこで取組まれることがのぞましく思います。なお負担区分の難問題もありますが、上述の根本策が樹立されれば、おのずからよき解決に到達できるでしょうから、今はこれには触れないでおきます。

他山の樹

農学部分館長 齊藤全生

図書館通信とは新たに入荷した蔵書の紹介、外国の図書館の現状、利用者の統計などの記事が載せられていて固くるしいものと相場がきまっている。この従来からの通念を破って少しヘソ曲りのそしりは免かれぬが静岡大学の図書館の環境について悪口や夢を書かせて貰うことにする。

昔から本を読む環境を表現するのに明窓浄机という言葉が有る。この言葉は騒音の俗界から隔離した書齋で窓の障子に若竹の葉の影を揺がせ、ひっそりとした如何にも幽寂そのものの環境で、然も机の上には一輪の花も活けてあり傍らには万卷の書が積まれていて、その中で本をひもとき思索にふける姿が目に見え。我々の図書館は建物こそは近代建築で立派だが、その環境たるや幽寂どころか凡そ縁遠い現状である。建物の北側は学生広場でコンクリートと石畳で固められて居り、刑務所の高塀を想わせる障壁があり、また南側は食堂の屋根が目と鼻の間に接している。何だかヤミ市の中に忽然と湧いて出た建物で本を読むように感ずるのは筆者のヘソが曲っているためだらうか。もう少し南側にも北側にも余裕をとって、せめて静かなフン囲気を醸し出す植え込みをつくる位の余地はとることが出来なかったのだろうか。片山の地形上現在のようにするしか建てようが無かったらうが、せめて南側の食堂は図書館の環境を考慮に入れて離して欲しかった。序にもう一言悪口を追加させて貰うなら石畳とコンクリートは泥のついた足で入館されては館内が汚れるので、その事ばかり恐れて造ったとも言えそうである。

然らば現状ではどうすれば本が読める静かな環境が作り出されるだろうか。第一に学生広場との間に植え込みをつくりたい。植え込みの材料はマツ、スギ、イヌマキ、カイヅカイブキ等の針葉樹類は極力避けて葉の柔い感じのする落葉広葉樹の植え込みにしたい。例えば日本産樹種ならカツラ、アカシデ、カエデ類、ケヤキ（理学部寄りに数本植えてあるが非常によい）シナノキ、トチノキ、外国産樹種ではナンキンハゼ（中国原産で瘠地に耐え秋季の紅葉は瘠地のもの程美しい）、ハナミヅキ、ユリノキ等がよいと思う。これ等の樹木は読書に疲れた目を医すに恰好のものである。第二に学生広場の石畳は全面に敷きつめず市松に半

数を剥がしてシバを植えたい。言うならば白の石畳と緑のシバの市松模様にするのである。植えるシバもそこらにあるオニシバのような安物でなく葉の細いコウライシバにしたい。（市松に石畳を配置することは何かの時差支えがあるという向もあらうが）。第三に広場にあるコンクリート障壁には『……』と落書されるより、寧ろツタを植えてつけて緑にしたい。ツタを匍わせることについて賛否両論がある。すなわち、落葉した後の冬の姿が汚いこと、吸盤のようなもので壁面に附着しながら枝を伸して行くので、吸盤の部分からコンクリートを腐植させる物質を出すとかでコンクリートが弱くなる等の非難はあるが、肩をいからせた落書より和やかである。下からツタを昇らせると同時に上から垂れ下る外国産のヘデラ（日本のフユツタに近縁のもので葉に斑がある）も植えたい。これは常緑なので冬も葉が有り、ツタの欠点をカバーして呉れる。

次に目を南側に向けて見よう。農学部移転に伴って造築の概算要求が出されているそうだが、実現の暁には、館長室も移転することにならうが現在の仮館長室からの眺めは一寸頂けない。大崩海岸の遠望はまだよいとしても近景の食堂の屋根は殺風景である。（文字通り風景を殺している）此処にも目かくしとなるように全体を植え込みにしたい。トネリコ、トチノキ、カツラ、ハナアカシア、アメリカミヅキなどの樹木にツバキ、モクセイ等の花木を植えたい。尚南側も北側も植え込みの下には丈の低い花木を寄せ植えしてあしらいたい。

以上は素人の植木屋の世迷言であるが他山の樹ぐらいになれば幸である。

■昭和46年度附属図書館委員会委員 (7月1日現在)

図書館長	石塚 経雄	
人文学部	近 昭夫	岡部 政裕
教育学部	八木 達彦	佐々木 昭
理学部	小沼 茂樹	近藤 亮司
工学部	横田 貞治	市川 常男
農学部	西垣定治郎	齊藤 全生
教養部	植松 茂	宗片 邦義
電子研	豊田 耕一	高木 克巳
事務局長	谷口 健一	

私のすすめたい本

一はじめに一

一個人の読書歴より取出された「私のすすめたい本」のもつ意味は何か—それはこの、価値基準の錯綜する現代にあってその選択の契機になるのではないか、ということだ。一を選択することはそれに続くものをも選択できたということなのだから。古代ギリシャ人でさえ知らなかったという快楽=読書に耽溺してもらいたいものと秘かに願う。(※は図書館所蔵を示す)

加藤 一夫 (教養部 経済学 助教授)

※(1) 金子ハルオ 「経済学(上)」 新日本出版社 昭42 (新日本新書)

経済学の基礎理論を身につけようというのであればこれをすすめたい。その論述は平易でしかも正確である。

※(2) 高島善哉 「アダム・スミス」 岩波書店 昭43 (岩波新書)

経済学の父と称せられるスミスを論じて、興味深い。この本は単に経済学だけではなく、広く社会科学の本質を考える場合の、一つの入門書たりうるであろう。

※(3) スタインベック, J. 「怒りのぶどう」

研究社 昭42 (20世紀英米文学案内22)

これは、賃金労働者の形成されていく過程の一断面を扱ったものとして読むことができる。特に、小農民が土地から追いたてられる事情を克明に描いた最初の部分は、経済学上の重要な問題をふくんでいるように思われる。

田中 茂 (教養部 数学 講師)

(1) 森毅 「現代の古典解析」 現代数学社 昭45 980円

まず、大学の数学の考え方にとまどっている一年生諸君にすすめる。大学の数学で誰もが最初につぶかるカベが、実数論と $\epsilon-\delta$ 論法であろう。この本では、教科書とはちがう身近なことばで、それらについてのていねいでわかり易い説明を与えており、更に微積分学一般にわたって実用的な概論がなされており、広い視野にたった数学的思考法が身につくと思う。どちらかというと理学部生向きだが、工学部生もこの程度の思考力は重要だと思う。とにかく、気楽によめるものがよい。

もう一冊、数学には関係ないが、最近感動させられた本として

※(2) 石牟礼道子 「苦海浄土、わが水俣病」、講談社 昭44

この本については説明の必要はないと思うが、ぜひ一読をすすめる。

藤井 隆 (理学部 細胞化学 教授)

(1) 大江精三 「自然の世界—自然認識の多重構造」 南窓社 昭44 650円

我々人間にとって自然とは一体何であるかを問い、この困難な問題に対し、哲学者である著者が一つの全く独創的見解を示した。例えば緑の色が感覚的にあく迄緑の色として知覚され決して電磁波のある波長として知覚されないことから出発し、感覚的知覚が物理学的自然世界とは異なる一種の数学的群によく似た構造を示すことを論じ、自然認識の多重構造、論理構造の多重性(排中律の否定)などに及んでいる。この種類の考察は、世界にもほとんどその類を見ないのではないかと思うのである。

池田 利男 (理学部 反応物理化学 教授)

(1) RWGurney, 鈴木伸也訳 「イオン溶液論」 産業図書 昭40 1200円(原題—Ionic processes in solution. McGraw-Hill, 1953)

この本はイオン性溶液の古典的分子像を解説したものであるが、なかでもイオンのエントロピーを溶液の粘性と結びつけた独創的理論の展開(第10章)は読者に感銘を与えるであろう。

もっとも気楽に読者の創造的意欲を啓発する書としては、最も独創的な化学者、物理学者であるMichael Faraday についての伝記—

(2) 矢島祐利 「ファラデー」 岩波新書 昭21 が挙げられよう。未だ読んだことのない向きに是非一読を薦めたい本のひとつである。

時には思い切りくつろいだ読書も楽しみだ。

(3) Agatha Christieの作品(創元推理文庫その他)が一番好きである。読みながらいくつかの可能性を一つずつ消してゆき、自分なりに真相の結着をつけようと試みるのだが、話のもっとも大切なキーポイントが最後に出てくるように仕組まれているのでいつも予想が外れてばかりいる。それでも結構楽しい。

宇山 直亮 (教育学部 英米文学 教授)

- (1) Mark Twain, The adventures of Tom Sawyer. 長埜盛 解説註 開文社 580円
マーク・トゥエインは日本では少年文学作家と見られているが、米国では彼の作品「ハックルベリー・フィンの冒険」および本書は、本格的な文学作品と見なされているばかりか、米文学史三大作家と云えば、ナサニエル・ホーソン、ハーマン・メルヴィル、マーク・トゥエインとあげられる。夏の読物に好適である。
- (2) John Gunther, New London, new Paris and new Tokyo. 宇山直亮編註 朝日出版社 340円
ジャーナリストとして超一流であったジョン・ガンサーが、曾遊の世界の大都市12を選んだ Twelve cities から三都をえらんだもの。ジャーナリストのきびきびした明快な文章によって三大都市の近代化の様相を知ってもらうのに最適であると考ええる。

角替 弘志 (教育学部 教育学 助教授)

- (1) W. Wordsworth. The prelude. 竹友庸雄・前川俊一注釈 研究社 (英米文学叢書) 2巻 各巻980円
- (2) J. オーウェル 「1984年」 新庄哲夫訳 早川書房 780円 (世界SF全集10)
この二冊はロンドン大学のニブレット教授が教師を志望し教育研究をはじめようとする者に推めている数冊のうち、われわれに直ぐ入手できるもの。前者は副題に詩人の心の成長と付けられているようにワーズワースの自叙伝体の長詩で、英国の教員養成大学では必読とされているもの。後者は反ユートピア小説の代表作であり冷徹な目を通して未来社会を描き出している。同書にはA. ハックスリーの「すばらしい新世界」(松村達雄訳) も含まれている。
- (3) P. ミュラー 「子どもの仕事」 深田尚彦訳 平凡社 550円 (世界大学選書)
子どもが生れてから独立した社会の一員となるまでになすべきことを広い視野から述べたもの。
- (4) 中央教育審議会 「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」中教審答申 大蔵省印刷局 7月中旬刊行予定 去る6月11日に文相に答申したものの全文。

豊川 卓爾 (人文学部 財政金融論 教授)

現代の国際通貨危機＝ドル危機を理解する為に

- ※(1) 牧野純夫 「円・ドル・ポンド」(第2版) 岩波書店 (岩波新書) 昭44 150円
- ※(2) 三宅義夫 「金一現代の経済におけるその役割」 岩波書店 (岩波新書) 昭45 150円
- ※(3) マグドフ 「現代の帝国主義」 岩波書店 (岩波新書) 昭44 150円
現代のアメリカの体制的矛盾を歴史的に理解する為に。
- ※(4) S. レンズ 「アメリカのラディカリズム」 青木書店 昭42 1200円
- (5) フォスター 「黒人の歴史—アメリカ史の中のニグロ人民—」 大月書店 昭45 1400円
なお参考文献として
- (6) 亀井・平野編 「総合アメリカ年表」 南雲堂 昭46 850円
マルクス『資本論』(国民文庫、岩波文庫その他の体系的把握が現代社会学研究の不可欠の前提的課題。その為の参考文献として
- (7) 久留間鮫造編 「マルクス経学レキシコン」
※ 第2—3巻(方法I、方法II) 大月書店 昭44 1700円
その他現代史理解のために
- ※(8) E. ウィリアムズ 「資本主義と奴隷制」 理論社 昭43 1500円
- (9) ブトケヴィチ 「ゾルゲ=尾崎事件」 青木書店 昭45 700円
- ※(10) 小此木真三郎 「ファシズムの誕生」(増補新版) 青木書店 (青木文庫) 昭46 200円

高橋 亘 (人文学部 理論哲学 教授)

- ※(1) 「世界古典文学全集 第14—15巻(プラトン第1—2)」 筑摩書房 昭45 1200円
哲学は古典を読むこと。或る時流行した人で、何年か経てば忘れられて了う人も沢山いる。
- ※(2) 「世界の名著 第14巻(アウグスチヌス『告白録』)」 中央公論社 昭43 500円
西洋で最も広く読まれている教養書。西田幾多郎博士の愛読書でもあった。
- (3) エッケルマン 「ゲーテとの対話」 岩波書店 (岩波文庫) 昭44 200円
ニーチェは、例の大きな言い方で『世界最良の書』と言った。大人間ゲーテ晩年の思想が語られている。
- ※(4) トルストイ 「戦争と平和 第1—8」 岩波書店 (岩波文庫) 昭37 150円
面白かった。

※(5) ドストエスキー「カラマーゾフの兄弟」第1-4 岩波書店（岩波文庫）昭37 200円
昔夏休みに、興味深く通読した記憶がある。

青年時代、清新な気持で読書に没頭できた頃がなつかしい。青年時代は貴重だ。遊んだり、恋をする為ではない。読書する為に！

渡辺 始（工学部 粉体工学 講師）

(1) 三輪茂雄「粉体工学入門の入門」（『粉体と工業』臨時増刊号）粉体と工業社 昭46

どうせ工学なんてのはクソ面白くもないのがあたりまえであり、理学という方がなんとなくものわかりがよくて、カッコイイと思っていた著者が、何故粉体工学にとりつかれる様になったか、「粉体の世界って面白いですか」と問われると「世界は粉体じゃないですか」と開き直り、粉体工学的世界像は、やがて工学の域をこえて、一般化される時代も近いであろうという著者の意見に筆者も同門の士として共鳴した。学問とは独自の方法論をもち、独自の発展の道筋に沿って、独りだちできるものでなければならないし、そして独自に問題を提起し、技術の発展の方向をも指示することができるものでなければならない。とすれば粉体工学は、マスプロ、人手不足、公害といった深刻な圧力のなかで、場当り的に処理してきたが、まだ粉体技術の集約の段階であり、学問とは言い難い。意欲はもっているが力量不足で粉体工学を学んだら、すぐ何かできると期待するのは幻想に過ぎないであろう。しかしものを見る目は違ってくるはずである。工学部に進学し、実験、講義に追いまわられて、夏休みに入ってほっとしている諸君、或いは4月に入学し、工学部とはどんなことをやるのか興味、疑問を持っておられる方々が夏の暑気払いに、寝ころんでも読める本である。方々に載っている著者自ら書いた挿絵は睡気をとばしてくれるのに十分であろう。著者は昭和2年生れで、ふるい分けに関する研究をされ、理論的体系を創造され、化学工学協会論文賞の第1回の賞を受けられた研究者である。

兵藤 宏（農学部 青果保蔵学 助教授）

※(1) キュリー夫人「ピエル・キュリー伝」

渡辺慧訳 白揚社 昭34

この書はピエル・キュリーの人となり、生涯について最もよき理解者であったマリー・キュリーにより記された珠玉の様な伝記であります。

これはいわゆる一般的な意味での伝記とは少し異っています。又その点が大変魅力あるのですが。この書ほどピエル・キュリーについてありのままに正確に伝えられるものはないと思われます。それはピエルの最もよき理解者であり、ピエルを最も愛し、研究の発展に共につくしたマリーによって書かれたからです。従ってこの書は単にピエルのことを伝えるのみだけではなくマリー自身のことも述べられたものです。ピエルとマリーは研究の上においてもいつも共に2人なくしては考えられずピエルを語ることはマリーを語ることであったと思います。この書にはピエルのあのめぐまれた才能と資質についてがあますところなく描かれています。私はあのピエルのもつ豊かな人間性、自然を愛する心、自然科学への情熱にかぎりない魅力を感じます。マリーの言葉を引用しましょう。……「かれの温情はあらゆる善行のうちで最もすばらしいものでありまして、つねにかかわらず人に救いの手をさしのべようとし、そこには優しさと親切さとが満ちあふれておりました。この優しい愛情に身ぐるみ包まれているということは幸いなことでした。しかしこの愛情がすみずみまでしみわたっている雰囲気の中に生活した者にとって、突然それを失うということはなんとという残酷なことでありましょう。」……この書で又一段と興味のある箇所はピエルとマリーが放射能の研究をおこなった動機やいきさつ、その間の苦労などが大変生き生きと描き出されているところです。雨もりのするバラック小屋の中で数トンのピッチブレンドから2人で2ケ年を費して行ったラジウムとポロニウムの分離の仕事には全く心をうたれます。私はかつてキュリー夫人を描いた映画の中でこの研究の過程をみる事ができました。冬の寒い夜、長い間の努力の結果分離された精製物からの発光物を見守る2人の姿に感動をおぼえました。終りに、更につけ加えられるべきことは訳者の渡辺慧氏のことです。渡辺氏は物理学者でかつてフランスに留学中キュリー夫人の最後の講義を聴講する喜びをもたれたと記しておられます。本文中、随所に出てくる研究の内容、専門用語、当時の科学者や社会の様子などをわかりやすくていねいに解説しておられます。氏がキュリー夫妻の研究はもちろん、2人の人間性に深い理解をもっておられたことがあちこちによく感ぜられます。

■図書館委員会報告

昭和46年2月23日

(昭和45年度 第7回) 於 本 館

- (1)法経短大図書問題について協議を行い、今後も継続して審議することにした。
- (2)浜松分館長より浜松分館新築に伴う経過説明があった。

■東部地区図書委員会報告

(昭和45年度 第16回) 3月12日

- (1)教養部試験が延びたため休館中(3月15日~4月10日)の図書館を3月31日から4月3日迄開館する旨報告があった。

(昭和46年度 第1回) 4月26日

- (1)延長開館について、今回は5月10日(月)~6月19日(土)の月水金土に実施したい旨提案がありこれを了承した。
- (2)今年度の指定図書は一般課程を重点的に考慮し、一般・専門課程とも来年度の講義を考慮の上指定することに留意し次の機会に審議することとなった。

(第2回) 5月10日

- (1)法経短大図書問題についての継続審議を行った。

(3回) 5月28日

- (1)本館維持費の前年度までの経過及び本年度所要額の概略説明があり審議の結果これを了承した。
- (2)本年度の教養図書購入費総額は東部地区学部等の積算校費の1.7%としたい旨提案があり審議の結果これを承認した。

- (3)本年度の指定図書購入費予算は70万円とし実施方針は今後検討することとした。

(第4回) 6月14日

- (1)本館維持費について5月28日、6月11日の維持費検討委員会の審議経過について説明がありこれを了承した。

■図書館維持費検討委員会報告

5月28日・6月11日

- (1)本年度本館維持費及び指定図書購入費について審議した。

~~~~~

〈編集委員〉

本年度の委員の顔ぶれは下記の通りです。

近藤(理学部)・高木(教養部)

中島・石塚・小野田(功)・岩本(図書館員)

=====

## お知らせ

=====

○夏季休業中の図書長期貸出要領

- (1)貸出冊数 1人4冊以内(但し指定図書は、2冊まで)
- (2)申込みに必要なもの
- a. 館外貸出証
- b. 長期貸出票(3階カウンターにあります。教官印欄には指導教官、又はこれに代るべき教官の捺印を必ず受けて下さい。)
- (3)申込み期限 6月30日まで
- (4)貸出日 7月7日(水)~9日(金)
- (5)返却日 9月1日(火)~3日(木)

※・申込み時に貸出票の半券を渡しますの  
で貸出、返却時には必ず持参して下さい。  
・長期貸出作業のため、6月21日(月)  
より普通貸出は停止致します。

○夏季休館

7月21日(水)~8月31日(火)

○返却遅滞図書について

返却期限の過ぎた図書は至急、3階受付へ、返却して下さい。貸出期間は開架・出納式図書は1週間、指定図書は3日間です。同じ年度内に3回遅滞した者はその年の貸出は停止しますので注意して下さい。

## ■人事異動

(本館)

—退任—

天野佳人 館長

—新任—

石塚経雄 館長

—配置換—

山村秀夫 総務係長→理学部会計係長

友田康夫 総務係長←事務局経理部主計課

鈴木国夫 運用係員→工業短期大学部総務係

—新採用—

水野善文 運用係員

国分豊子 総務係員

静岡大学附属図書館「図書館通信」 No. 10 1971年7月10日発行

発行所 静岡大学附属図書館

静岡市大谷 836 TEL(85)1175

印刷所 文 化 洞

静岡市大岩北1185 TEL(45)6260